

郡市等医師会だより



勤務医部会の輪を広げよう

大分大学医学部医師会

猪股 雅史

大分大学医学部医師会は、2018年10月に設立されて以来、初代会長の守山正胤先生、第2代の山岡吉生先生のビジョンとご尽力により、会員数も増えその活動も着実に発展してまいりました。2023年4月よりそのバトンを受け、卒後臨床研修センターや各臨床系講座とタイアップした若手会員数増加を展開しており、現在その会員数は324名に達し、その活動も多方面に発展しています。設立以来、温かいご支援をいただいています大分県医師会の皆様に、心より感謝申し上げます。

大分大学医学部医師会の最大の役割は、県内唯一の医師育成機関である大分大学医学部の卒業生が、大分県の地域医療にしっかりと応えうる環境整備と考えています。また地域枠（13名）に加え地元出身者枠（10名）の特色ある入試制度に基づく医師養成にも力を入れています。大分県医師会、各郡市等医師会、日本医師会との緊密なタイアップのもと、大分県や各市町村の自治体、医師の勤務制度に関わる厚労省や文科省等、政府との連携を強化することも重要と思います。

最近の主な活動は、(1) 大分大学医学部との連携強化にて、若手奨励賞（学術部門・特別活動部門）および大分県医学会雑誌学術奨励賞による若手会員の学術的サポート、(2) 大分県医師会との連携強化にて、大分県医学会雑誌への投稿数増加と円滑な査読制度の支援および大分県医師会勤務医部会会長として、勤務医の声を反映した活動を推進、(3) 日本医師会勤務医委員会の委員として、全国の医学部医師会との意見交換、並びに全国共通あるいは大分県に特化した課題を整理し解決策を講じる、などです。

今後は、地域医療のさらなる充実のため、医師をはじめ、看護師、薬剤師など医療従事者のリカレント教育の推進の面でも、大分県医師会の皆様には温かいご指導を賜りたいと思います。2026年11月に大分県医師会が担当として、全国医師会勤務医部会連絡協議会が開催の予定であり、大分県地域医療モデルが好事例として全国に広がる絶好の機会になることを期待しています。